

A-24 児童遊園地の諸問題（第2報）

形態論を中心にして

大阪市立大学 小林 繁

都市における公営児童遊園地（児童公園子供の遊び場等一切を含む）の必要性は充分に知られながら実際にはその不足をかこっているのが現実である。これら児童遊園地の維持運営に関しては第1報で述べたが今回は主としてその形態について論ずるものである。児童の活動意欲，運動能力，その心理傾向に立脚して築造さるべき児童遊園地には，造園上原則的形態が存する。然しこれに錯綜した各種条件が加わる時必ずしも原則通りにいかない。2,3の事例によってその解説を試みたい。